

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03624

研究課題名（和文）民主主義体制における少数派排除のグローバル化 アジア・アフリカの比較研究

研究課題名（英文）The Globalization of Majoritarian Democracy: Comparative Studies of Asia and Africa

研究代表者

中溝 和弥（Nakamizo, Kazuya）

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授

研究者番号：90596793

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 33,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、2010年代以降、アジア・アフリカ地域の民主主義国、ないし民主化の途上にある国家において生起している少数派排除の構造を解明することを目的とした。そのため、アジア・アフリカ地域で現地調査を実施すると同時に大規模サンプル調査も実施し、課題に取り組んだ。研究期間中、コロナ禍という想定外の事態に見舞われたため現地調査の実施が困難になったが、メンバーがこれまで培ってきたネットワークを活用して、コロナ禍において少数派の排除が形を変え、場合によっては加速している事態が明らかになった。イギリスとの国際共同研究も同時に進め、本研究課題に関する研究成果を国際的に発信する努力を行い、成功した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

次の三つに要約することができる。第一が、自由と平等の実現を目指す民主主義体制において少数派の排除が進行するパラドクスを、アジア・アフリカ諸国の実例に基づいてその過程を分析したことである。第二が、コロナ禍という未曾有の事態において、少数派の排除が形を変え、時に加速する過程を明らかにしたことである。第三が、これら研究成果を国内外の学会や一般向けの講演会で発表すると同時に、図書（一般図書を含む）・論文の形で刊行し、学会はもちろんのこと広く社会に還元したことである。とりわけ、パンデミック下で起こった様々な事象を、各国事情を踏まえながら分析したことの意義は、学術的にも社会的にも大きな意味を持つ。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this project is to explore the structure of exclusion of minorities under democracies or democratizing process in Asia and African countries since the 2010s. For this end, we conducted field works and large sample surveys in these countries. Though we suffered from COVID-19 pandemic, which was unexpected when we started this project, we analyzed this new situation by utilizing the networks that the members had developed. We found that the exclusion of minority groups was taking place and, in some cases, even accelerated in different forms under the pandemic. At the same time, we conducted an international joint research project with the UK counterpart (‘Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia: A Comparative, Interdisciplinary Study’, funded by the Economic and Social Research Council under the UK-Japan SSH Connections Call), which succeeded in publishing our research findings internationally.

研究分野：現代インド政治 / 比較政治学

キーワード：民主主義 / 民主化 少数派の抑圧 アジア・アフリカ諸国 自警団 権威主義化 暴力 宗教 民族

1. 研究開始当初の背景

2010年代以降、民主主義国、ないし民主化の途上にある国において、少数派（例えば、特定の宗教・民族・貧困層など）に対する暴力的な排除が顕著に見られるようになった。具体的には、インドにおけるムスリムに対する攻撃、ミャンマーにおけるロヒンギャ迫害、スリランカにおけるタミル系、ムスリムに対する抑圧、フィリピンにおける「麻薬撲滅戦争」などである。少数派に対する迫害は今に始まった話ではないが、近年見られる新しい現象は、第一に、これらの迫害が、民主主義国家、もしくは民主化の途上にある国家で行われている事実であり、第二に、迫害の主体は、時に武装した自警団組織が担うことが多いという点である。例えばインドにおける雌牛保護団や、ミャンマーのロヒンギャ迫害において暗躍した民兵組織などを挙げることができる。このような民主主義国家における少数派の排除を、どのように捉えればよいかという問いが、本研究プロジェクトの出発点であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、民主主義国家において生起している少数派排除の構造を解明することにある。少数派排除の動きは、現在、世界各地で同時に進行・拡大しており、グローバルな現象といえる。本研究では、なぜ同一の現象がグローバルな規模で同時期に起こっているのか、少数派排除と民主主義体制は関連しているのか、少数派の暴力的排除に暗躍する自警団/私兵組織は、なぜ、どのように現れるのか、少数派排除に関し市民はどのような意識を持っているのか、という4つの具体的な問いを設定し分析を行った。

3. 研究の方法

研究の手法としては、主に三つの手法を採用した。第一が、本研究テーマに関連する文献情報の精査である。議論の枠組みに加えて、少数派に対する迫害の現状を入手可能な資料に基づいて分析した。第二が、アジア・アフリカ諸国におけるフィールド・ワークである。2020年度からコロナ禍の影響により現地調査が困難になる現状はあったものの、繰り越し制度を活用して調査の機会を待った。第三が、大規模サンプル調査の実施である。コロナ禍で現地調査が困難ななか、インドの調査期間に調査を委託することにより、2019年インド総選挙、2020年ビハール州（インド）州議会選挙、2022年ウツタル・プラデーシュ州（インド）州議会選挙に関して大規模サンプル調査を実施した。

4. 研究成果

本研究の成果の特徴として、次の三点を挙げることができる。第一が、国際共同研究の推進、第二が、コロナ禍という想定外の事態への対処、最後が、大学院生を中心とした若手研究者の育成である。

第一については、本研究の開始後ほどなく、イギリスとの共同研究（‘Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia: A Comparative, Interdisciplinary Study’, funded by the Economic and Social Research Council under the UK-Japan SSH Connections Call）が採択されたため、本研究と組み合わせる形で国際共同研究を実施した。

第二については、研究期間の後半にコロナ禍に見舞われたものの、コロナ禍の下で新たに進行する少数派の排除を分析の射程に取り入れながら、研究を遂行した。

第三については、各年度において、大学院生を中心とした若手研究者を対象とした英語講義を実施し、加えて英語での研究発表の機会を与え、若手の研究能力向上を図った。

各年度の研究成果は、次の通りである。

(1) 2018年度

2018年度の研究実績の柱は四つある。第一が、国内研究会の開催、第二が、イギリスとの共同プロジェクトの開始、第三が、研究成果の国際会議における還元、第四がインド総選挙調査の実施である。

第一については、2018年度に2回、科研メンバーによる研究会を京都大学で実施した。初年度であるため、科研テーマに関する枠組みとメンバーが担当する各国における現状について分析を行った。

第二については、海外共同研究者であるイギリス・ロンドン大学ゴールドスミス校 Sanjay Seth 教授と前述の共同研究 ‘Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia: A Comparative, Interdisciplinary Study’ を開始した。第1回ワークショップを2019年3月にロンドンで行ない、本科研メンバーとイギリス側メンバーで研究成果を発表した。

第三については、まず2018年7月にパリで開催された 25th European Conference on South Asian Studies において ‘Majoritarian Politics and Vigilante Justice in India’ と題するパネルを科研メンバーで組織し、報告を行った。更に同年8月には、本科研海外共同研究者であ

るシンガポール国立大学の Tabarez Ahmed Neyazi 博士が主催する研究会 (Seminar organized by South Asian Studies Programme and Department of Political Science, Faculty of Arts & Social Sciences) において報告を行ない、研究成果を発表した。

第四については、2019 年 4 月から 5 月にかけて行われたインド総選挙の調査を実施した。インド北部に位置するビハール州を対象とし、今年度は投票前の大規模な調査を実施した。調査は、本科研海外共同研究者である前述のシンガポール国立大学の Neyazi 博士と共同で行った。

(2) 2019 年度

2019 年度の研究実績の柱は四つある。第一が、国内外での研究活動、第二が、イギリスとの共同プロジェクトの推進、第三が、大学院生を対象とした講義の実施、第四がインド総選挙調査の実施である。

第一については、まず、国内では京都大学で研究会を 2019 年 6 月に開催したのち、2019 年 11 月のアジア政経学会秋季大会において自由応募分科会「2019 年インド総選挙と民主主義の将来」を企画し、科研メンバー (海外研究協力者を含む) で研究成果を発表した。海外では、2019 年 7 月に ICAS において科研メンバー (海外研究協力者を含む) でセッションを企画し研究発表を行った。さらに、同年 8 月には、APSA で、海外研究協力者ととも科研メンバーで研究発表を行った。

第二については、前述のイギリスとの共同研究を推進した。2019 年 7 月に京都でワークショップを行い、同年 10 月から 11 月にかけてロンドンでワークショップを実施し、本科研メンバーとイギリス側メンバーで研究成果を発表した。

第三については、海外研究協力者である Achin Vanaik 先生を 2019 年 11 月に招聘し、インドの著名ジャーナリストである Pamela Philipose 氏とともに大学院生向けに講義を行い、インドの外交・内政に関する理解を深めた。

第四については、昨年度のインド/ビハール州投票前調査に引き続き、投票後調査を実施した。調査は、海外共同研究者であるシンガポール国立大学の Neyazi 博士と共同で行った。

(3) 2020 年度

2020 年度の研究実績の柱は三つある。第一が、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が各国の政治体制、とりわけ少数派に与えた影響の分析、第二が、大学院生を中心とした若手研究者による国際ワークショップの開催、第三が、インド・ビハール州における州議会選挙調査である。

第一については、2020 年 11 月、2021 年 3 月と二回にわたって、「コロナ禍・マイノリティ・民主主義」というタイトルで新型コロナウイルス感染症のパンデミックという危機がアジア・アフリカ諸国に与えた影響を分析した。本科研メンバーが各自担当する国の状況について報告するなかで、感染症対策としての行動規制が、権威主義化の傾向を強めていた国々の権威主義化をさらに進めた事がわかった。例えば、インドはその格好の例である。

第二については、2020 年 5 月に、2020 年度「南アジア・インド洋世界研究会第 1 回国際ワークショップ」として科研費基盤研究 (A)「復興の比較研究—南アジアの事例から」(藤倉達郎・京都大学教授代表)と共催して実施した。大学院生にとって英語で研究発表を行い、議論する機会を提供した。

第三については、海外研究協力者であるシンガポール国立大学の Tabarez Ahmed Neyazi 博士と共同で、インド・ビハール州の州議会選挙に関し、2020 年 10 月から 11 月にかけて投票前調査と投票後調査を実施した。ビハール州は、インド第三位の人口 (1 億人以上) を有する大州で、その州政治が全国政治に与えるインパクトは大きい。コロナ禍での選挙であったため、現地の調査会社を使った委託調査を行ったが、大規模なサンプル調査を無事に実施することができた。成果は、2020 年 12 月の The 1st Asian Consortium of South Asian Studies (ACSAS) Webiner で発表すると同時に、Neyazi 博士と共著論文の執筆を進めた。

最後に、イギリスとの共同研究に関しては、2020 年 4 月に最終のワークショップを京都で開催する予定であったが、コロナ禍のため来年度に延期することになった。

(4) 2021 年度

最終年度となった 2021 年度の研究実績の柱は五つある。第一が国内外での研究活動、第二がイギリスとの共同プロジェクトの推進、第三が大学院生を中心とした国際ワークショップの開催、第四がアフガニスタン情勢の急展開に伴う公開講演会の開催、第五がインド最大の州であるウッタル・プラデーシュ州議会選挙の調査である。

第一については、2021 年 10 月に 49th Annual Conference on South Asia (UW-Madison) においてパネルを立て、科研メンバーと共に発表を行った。さらに、2021 年 11 月には、アジア政経学会秋季大会において檜山セミナー 'Crisis and Hope: Debating Democracy in Asia' を企画し、イギリスとの共同プロジェクトのカウンターパートである Sanjay Seth 教授 (Goldsmith, University of London) を招へいしてアジアの権威主義化について議論を行った。その成果は、『アジア研究』第 68 巻 4 号で特集として刊行した。2023 年 3 月には Yale 大学でセミナーを開催し、インドの宗教的少数派に対する暴力を分析した。

第二については、前述の Seth 教授と行っているイギリスとの共同研究の最終ワークショップ

を2022年9月に実施した。ワークショップでは成果の刊行について話し合い、ジャーナルの特集として掲載する準備を進めている。

第三については、2021年4月に2021年度南アジア・インド洋世界研究会第1回国際ワークショップを開催し、大学院生に英語で発表を行い議論する機会を提供した。

第四については、アメリカの撤退に伴うアフガニスタンの政変とこれに伴う混乱に関し、アフガニスタンの紛争解決に長年取り組んできた平和村ユナイテッドの小野山亮代表理事を招へいして公開講演会を開催した。混沌とした情勢と今後の行方を明晰に分析した。

第五については、2022年1月から3月にかけてインド最大の州であるウッタル・プラデーシュ州議会選挙の大規模サンプル調査を、NIHU プロジェクト「南アジア地域研究」と共同で行った。2020年ビハール州議会選挙調査と同様に委託調査を行った。

以上が研究成果の概要である。コロナ禍という想定外の事態に見舞われたものの、国際共同研究を推進し、グローバルに観察される民主主義国家、ないし民主化の途上にある国家における少数派排除の現状をアジア・アフリカ諸国の実例に基づいて分析することに成功した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計64件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 Minoru Mio, Kazuya Nakamizo, Tatsuro Fujikura	4. 巻 -
2. 論文標題 Introduction	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Dynamics of Conflict and Peace in Contemporary South Asia: The State, Democracy and Social Movements	6. 最初と最後の頁 -xxiii
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003038528	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazuya Nakamizo	4. 巻 -
2. 論文標題 Democracy and vigilantism: The spread of Gau Rakshaks in India	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Dynamics of Conflict and Peace in Contemporary South Asia: The State, Democracy and Social Movement	6. 最初と最後の頁 3-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003038528	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中溝和弥	4. 巻 -
2. 論文標題 書評：佐藤創「試される正義の秤 南アジアの開発と司法」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 年報政治学2021年度 号『政党システムの現在』	6. 最初と最後の頁 256-260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7218/nenpouseijigaku.72.1_253	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 NAKAMIZO Kazuya	4. 巻 67
2. 論文標題 Preface	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 38 ~ 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11479/asianstudies.67.2_38	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中溝和弥	4. 巻 31
2. 論文標題 書評論文：油井美春著『現代インドにおける暴動予防の政策研究ーコミュニティ・ポリシング活動の挑戦』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 南アジア研究	6. 最初と最後の頁 135-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11384/jjasas.2019.135	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中溝和弥	4. 巻 -
2. 論文標題 インド民主主義の危機	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属南アジア研究センター	6. 最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中千春	4. 巻 -
2. 論文標題 21世紀のパンデミック政治と気候変動政治のネクサス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『気候変動は社会を不安定化させるか 水資源をめぐる国際政治の力学』	6. 最初と最後の頁 17-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中千春	4. 巻 -
2. 論文標題 安全と豊かさをつくる人々 南アジアの周縁から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 安全保障の脱構築 安全保障を根本から問い直す	6. 最初と最後の頁 101-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 707
2. 論文標題 アフリカの平和に向けた日本の政策と実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rohan D ' Souza	4. 巻 27-4
2. 論文標題 ' Citizen, Consumer, User: Covid-19 and the Higher Education Churn in India '	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The JMC Review	6. 最初と最後の頁 625-633
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 240
2. 論文標題 ミャンマー危機が孕む地政学的リスク	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ジャパン・スポットライト	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 66
2. 論文標題 ミャンマー政変 その背景と構造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 66
2. 論文標題 呉越同舟の限界・ミャンマーのクーデター：根深い対立、混乱は長期化の懸念	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 98-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 520
2. 論文標題 乗っ取られたミャンマーの民主主義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Voice	6. 最初と最後の頁 134-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 341
2. 論文標題 政変が変えるミャンマー・中国関係の行方	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日中経協ジャーナル	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 78
2. 論文標題 ケアの文化人類学が現代日本にもたらすもの	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 279-283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中溝和弥	4. 巻 66
2. 論文標題 "Dismantling Democracy: The 2019 Indian General Election and the Formation of the 'BJP system'"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 76-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11479/asianstudies.66.2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中溝和弥	4. 巻 697
2. 論文標題 コロナ禍と惨事便乗型権威主義ーインドの試練	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 NAKAMIZO Kazuya	4. 巻 67
2. 論文標題 The Politics of Obedience: The BJP System and the 2020 Bihar State Assembly Election	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 40 ~ 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11479/asianstudies.67.2_40	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中溝和弥	4. 巻 12
2. 論文標題 気候変動と民主主義ーインド・ビハール州における洪水とその政治的含意ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学未来ビジョン研究センター2020年度ワーキングペーパー・シリーズ	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takenaka, Chiharu	4. 巻 -
2. 論文標題 State and Civil Society in East Asia in the Age of Globalization	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Globalization and Civil Society in East Asian Space	6. 最初と最後の頁 13-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中千春	4. 巻 -
2. 論文標題 戦争・暴力・平和 war, violence, and peace	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 平和学事典	6. 最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日下渉	4. 巻 -
2. 論文標題 新時代のフィリピン人 なぜ「規律」を求めるのか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代フィリピンの地殻変動 新自由主義の深化・政治制度の近代化・親密性の歪み	6. 最初と最後の頁 8-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wataru Kusaka	4. 巻 -
2. 論文標題 Fake News and State Violence: How Duterte Hijacked the Election and Democracy in The Philippines,	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Fake News and Elections in Southeast Asia: Impact on Democracy and Human Rights	6. 最初と最後の頁 145-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日下 涉	4. 巻 -
2. 論文標題 ドゥテルテ政権のフィリピン外交 内政の論理と実利の確保	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ユーラシアの自画像 「米中対立 / 新冷戦」論の死角	6. 最初と最後の頁 143-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 707
2. 論文標題 アフリカの平和に向けた日本の政策と実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 30
2. 論文標題 アフリカ農村部における企業と人権 シエラレオネの事例から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本経営倫理学会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 -
2. 論文標題 中部アフリカ ポストコロナル国家の生成史	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩波講座世界歴史18 アフリカ諸地域 ~20世紀	6. 最初と最後の頁 175-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下條尚志	4. 巻 -
2. 論文標題 マイクロヒストリーを通じて考える対立の記憶 ベトナム南部メコンデルタ多民族混淆社会の 経験と場をめぐる歴史語り	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 マイクロヒストリーから読む越境の動態	6. 最初と最後の頁 193-227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水展	4. 巻 23
2. 論文標題 中村哲医師の活動と文化相対主義をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文化人類学研究	6. 最初と最後の頁 91-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水展	4. 巻 13
2. 論文標題 フィリピン社会の周縁ニッチで生きる先住先住民アエタの生存戦略：ピナトゥボ山大噴火の被災から創造的復興へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 年報人類学研究	6. 最初と最後の頁 50-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水展	4. 巻 103
2. 論文標題 横須賀ネイティブの自文化 = 自分化グラフィー：文化人類学における他者表象をめぐる内省から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋文化	6. 最初と最後の頁 89-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水展	4. 巻 -
2. 論文標題 危機を生き延びる—ルソン先住民アエタの柔軟対応力とトランスフォーマビリティ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 レジリエンス人類史	6. 最初と最後の頁 339-359
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rohan D ' Souza	4. 巻 -
2. 論文標題 'Hindutva and the Political Citizen: Unmaking Higher Education in Modi 's India' in Imtiaz Ahmed and Liyan Zhang (ed.)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Innovation in Education	6. 最初と最後の頁 55-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rohan D ' Souza	4. 巻 -
2. 論文標題 'Covid-19 Imaginings and the Zoom to a University Platform' in Imtiaz Ahmed (ed.)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Innovation in Education	6. 最初と最後の頁 135-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 3
2. 論文標題 ミャンマーの安全保障観と2・1クーデター	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 704
2. 論文標題 ミャンマーは破綻国家になるのか 政変後の混迷と新たな展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 41-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 67
2. 論文標題 クーデターから四ヶ月「革命の曲がり角」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 112-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 135
2. 論文標題 国軍による弾圧は続くのか? ミャンマー政変四つのシナリオ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 142-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西嘉宏	4. 巻 -
2. 論文標題 無血クーデターがミャンマーで起きたのはなぜか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際開発ジャーナル	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中千春	4. 巻 21
2. 論文標題 インド民主主義とアイデンティティ政治 国民、カースト、宗教の競合	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本比較政治学会編『アイデンティティと政党政治』	6. 最初と最後の頁 54-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 200
2. 論文標題 「アフリカ研究者の紛争研究 日本の国際政治学と紛争研究」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『国際政治』	6. 最初と最後の頁 23-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 56
2. 論文標題 『ルワンダの奇跡』後の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『外交』	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 1
2. 論文標題 紛争後のルワンダに見る和解の可能性と課題 ガチャチャを中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本心理学会・監修・大淵憲一編『紛争と和解を考える 集団の心理と行動』	6. 最初と最後の頁 195-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 1
2. 論文標題 「アフリカ人移民の背景にあるもの 農村社会の変容と国家建設」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『応答する<移動と場所> 21世紀の社会を読み解く』	6. 最初と最後の頁 213-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日下渉	4. 巻 22
2. 論文標題 「フィリピン2019年中間選挙 ドゥテルテによる「例外常態」の常態化」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『ワセダ・アジア・レビュー』	6. 最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日下渉	4. 巻 66
2. 論文標題 「ドゥテルテの暴力を支える「善き市民」 フィリピン西レイテにおける災害・新自由主義・麻薬戦争」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『アジア研究』	6. 最初と最後の頁 56-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 922
2. 論文標題 スリランカ連続爆破事件 その後の世界を生きる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 33-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水展	4. 巻 1
2. 論文標題 「フィールドワークから応答し協働する知の実践へ：文化人類学の新しい動き」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『学術の動向』	6. 最初と最後の頁 84-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SHIMIZU Hiromu	4. 巻 1
2. 論文標題 “Dynamic Resilience of Ayta Community: Creative Rehabilitation after Mt. Pinatubo’s Eruption, 1991”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Resilience and Human History: Multidisciplinary Approaches and Challenges for a Sustainable Future	6. 最初と最後の頁 147-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原帰一	4. 巻 1
2. 論文標題 "Hiroshima, Nanjing, and Yasukuni: Contending Discourses on the Second World War in Japan,"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Age of Hiroshima	6. 最初と最後の頁 201-218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中溝和弥	4. 巻 -
2. 論文標題 「開発と格差－インド・ビハール州における2014年下院選挙と2015年州議会選挙の比較研究」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「南アジア地域研究」京都大学中心拠点研究グループ2成果報告集『南アジアにおける民主政治と国際関係』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中千春	4. 巻 64
2. 論文標題 「「海の国際政治」とインド洋」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『アジア研究』	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中千春	4. 巻 56
2. 論文標題 「21世紀のアジア国際政治 ユーラシア大陸、インド太平洋、日印関係」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『デフェンス』	6. 最初と最後の頁 82-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中千春	4. 巻 -
2. 論文標題 「インド民主主義とアイデンティティ政治 国民、カースト、宗教の競合」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『アイデンティティと政党政治』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinichi Takeuchi	4. 巻 -
2. 論文標題 “Development and Developmentalism in Post-genocide Rwanda”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Developmental State Building: The Politics of Emerging Economies	6. 最初と最後の頁 121-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 117(1)
2. 論文標題 「内戦後の土地問題とピネイロ諸原則 ルワンダ・ブルンジの比較から」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国際法外交雑誌』	6. 最初と最後の頁 181-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 S. Ravi Rajan and Rohan D ' Souza	4. 巻 -
2. 論文標題 "Environmental History of India: An Overview"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 S. Ravi Rajan and Lise Sedrez (ed.), The Great Convergence: Environmental Histories of BRICS, Oxford University Press	6. 最初と最後の頁 274-295
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 拓徹	4. 巻 -
2. 論文標題 「1960年代のカシミール問題とインド・ムスリム政治」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「南アジア地域研究」京都大学中心拠点研究グループ2成果報告集『南アジアにおける民主政治と国際関係』	6. 最初と最後の頁 33-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 -
2. 論文標題 「「健康格差」からみるスリランカ社会 医療行政の展開に着目して」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「南アジア地域研究」京都大学中心拠点研究グループ2成果報告集『南アジアにおける民主政治と国際関係』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今村祥子	4. 巻 65
2. 論文標題 「統治と謀略：インドネシア・スハルト体制における「謎の銃殺」事件」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『アジア研究』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西 嘉宏	4. 巻 56
2. 論文標題 「現代ミャンマー政治の原点を再考するために」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 240-246
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20495/tak.56.2_240	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中溝和弥	4. 巻 923
2. 論文標題 「モディはなぜ圧勝したかー2019年インド総選挙の分析と展望」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 250-261
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中溝和弥	4. 巻 30
2. 論文標題 モディ政治の4年間：新しいヒンドゥー至上主義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南アジア研究	6. 最初と最後の頁 109-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計71件（うち招待講演 22件 / うち国際学会 32件）

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 COVID-19 and Migration crisis: Some Reflections on Urbanization in India
3. 学会等名 Institute for Future Initiatives, University of Tokyo 'Workshop Series-2 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 Comment on Prof. Riaz's paper 'Criminalizing Freedom of Expression in a Hybrid Regime: Bangladesh's Digital Security Act'
3. 学会等名 2021 KINDAS Research Group 2 Seminar (2nd) 'Democratic Backsliding and the COVID-19 Pandemic in South Asia' (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 Climate Change and Democracy: Water Management and its Political Implications in Bihar, India
3. 学会等名 The Second Symposium on Climate Change Politics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 「フィールドワークの実践知」日本政治学会メソッドカフェ
3. 学会等名 2021年度日本政治学会総会・研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 The Politics of Recovery in Post-Conflict Worlds in India
3. 学会等名 The 49th Annual Conference on South Asia(UW-Madison) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 Comment on 2021 Kashiya seminar
3. 学会等名 アジア政経学会 2021 Kashiya seminar 'Crisis and Hope: Debating Democracy in Asia' (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 'Interrogating Hindutva: Populism, Fascism, or Something New?'
3. 学会等名 The 13th INDAS-South Asia International Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 インド民主主義の危機
3. 学会等名 KINDAS グループ2 最終成果報告会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 Violence and Democracy: The Collapse of One-Party Dominant Rule in India (Kyoto University Press and Trans Pacific Press)出版の経験から
3. 学会等名 学術英語学会2021年度ワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 インド・ムスリムの現在 - 選挙政治をめぐるコネクティビティ
3. 学会等名 学術変革領域(A)「イスラーム信頼学」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 コメント
3. 学会等名 2022年度比較政治学会 分科会C「民主主義と紛争」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 「インド 漁夫の利」戦略の展開とクアッドへの影響
3. 学会等名 日本学術会議学術フォーラム「地球規模のリスクに立ち向かう地域研究 ウクライナ危機に多角的に迫る」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 若者とヒンドゥー至上主義ー2022年ウッタル・プラデーシュ州議会選挙分析
3. 学会等名 研究会「『不確実性の時代』の南アジアの社会変動ー若者の社会対応を通してー」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 国民国家と気候変動ーインドの洪水をめぐる民主政治ー
3. 学会等名 気候難民の厚生に資する産官学連携適応国際協力コミュニティ振興業務第6回専門家会議（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 拓徹
2. 発表標題 カシミール問題の歴史と現在
3. 学会等名 国際協力機構南アジアセミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 ダイヤモンドの言葉が人類学者に響くとき
3. 学会等名 哲学・文学・人類学 コーラ・ダイヤモンドの思考を手がかりに（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 からだのちっちゃいこえを聴いてきた水俣の臨床から
3. 学会等名 "日本文化人類学会公開シンポジウム 原子力マシーンとちっちゃいこえ -文化人類学者と詩人の対話-" (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 インド民主主義70年の軌跡-内政と外交-
3. 学会等名 富士通フューチャースタディーズ・センター第14回国際情勢研究会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 Politics of Obedience: BJP system and 2020 Bihar state assembly election in India
3. 学会等名 The 1st Asian Consortium of South Asian Studies (ACSAS) Webinar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 「コロナ禍と惨事便乗型権威主義 - インドにおけるマイノリティの迫害」
3. 学会等名 基盤研究A「民主主義体制における少数派排除のグローバル化 アジア・アフリカの比較研究」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 Floods and 2020 Bihar state assembly election
3. 学会等名 基盤研究A「気候変動と水資源をめぐる国際政治のネクサス - 安全保障とSDGsの視角から」研究会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 「コロナ渦のインドを読み解く」
3. 学会等名 JICA第3回南アジア地域セミナー（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 Water Management and Democracy The Case of Bihar, India
3. 学会等名 JSPS Research Project 'The Nexus of International Politics in Climate Change and Water Resource' Agenda for the First Research Meeting（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 インド・デモクラシー75年の軌跡と世界
3. 学会等名 JICA南アジアセミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 Nation and Violence: Reflections on recent vigilante violence in India
3. 学会等名 SASC Colloquium Series, South Asian Studies Council, MacMillan Center, Yale University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 下條尚志
2. 発表標題 「地域は移民と国民の分断に向かうのか？イギリスと日本から考える」諸報告に対するコメンテーター
3. 学会等名 山形大学人文社会科学部国際学術講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 下條尚志
2. 発表標題 Comments on "Troubles in the South: A Southeast Asian perspective on the global Cold War conflict" at the Panel "Troubles in the South: A Southeast Asian perspective on the global Cold War conflict," organized by Ayako Tomizuka
3. 学会等名 The Asian Studies Conference in Japan (ASCJ) 2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中西嘉宏
2. 発表標題 危機によるミャンマーの脆弱国家化 政変と混迷を生んだ国際的要因の検討
3. 学会等名 アジア政経学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 拓徹
2. 発表標題 ウクライナ戦争をめぐる国際政治とインドの位置
3. 学会等名 One Day University 2022 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 "The Crisis of Indian Democracy: Strong State and Vigilante Justice"
3. 学会等名 The 11th International Convention of Asia Scholars (ICAS) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 "New Strategy for Identity Formation: Analysis of 2019 Lok Sabha Election in India"
3. 学会等名 ESRC under the UK-Japan SSH Connections Call, co-sponsored by JSPS Scientific Research (A) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 "Populist Appeals and Party Support in Bihar"
3. 学会等名 American Political Science Association Annual Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 「民とは誰か？－インドにおける宗教マイノリティの抑圧」
3. 学会等名 日本政治学会分科会A - 2
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 「BJPシステムの成立とマイノリティの将来」
3. 学会等名 2019年度KINDAS研究グループ2 定例研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 "Concluding discussion"
3. 学会等名 'ESRC under the UK-Japan SSH Connections Call, co-sponsored by JSPS (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 "2019 General Election and the Formation of the BJP system in India"
3. 学会等名 2019年度アジア政経学会秋季大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹中千春
2. 発表標題 「ジェンダーをめぐる人道的介入と平和構築の論理 - ボスニア紛争の南アジアへのインパクト - 」
3. 学会等名 日本国際政治学会2019年度研究大会ジェンダー分科会B-4
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 “ Rwanda ’ s land law reform: Its implications for the landscape change ”
3. 学会等名 Global Landscape Forum (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 “ Consequences of the land tenure reform: The case of Rwanda. ”
3. 学会等名 94th KUASS, 12th KU-TUFS Seminar
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 拓徹
2. 発表標題 現在のカシミール情勢を考える
3. 学会等名 笹川平和財団研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日下涉
2. 発表標題 Fake News and Duterte in the Philippines: Neoliberal Subjectivities and Social-Banditry Populism
3. 学会等名 International Conference on Fake News and Elections in Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日下涉
2. 発表標題 War on Drugs and State of Exception in the Philippines: When a Bandit Grabbed the State
3. 学会等名 The 11th International Convention of Asia Scholars (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日下涉
2. 発表標題 Embracing Discipline: Neoliberal Moral Subjectivities and Duterteism
3. 学会等名 Plenary Talk at Philippine Sociological Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日下涉
2. 発表標題 Spatial, Legal and Moral Division of the Urban Poor: Neoliberal Governmentality and Disciplinary
3. 学会等名 Intervention in Metro Manila. International Research Forum on the Philippines (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日下 渉
2. 発表標題 Public Rights and Intimate Sorrow: Livelihoods and Dignity of Sexual Minorities in the Philippines
3. 学会等名 Consortium for Southeast Asian Studies in Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村 沙絵
2. 発表標題 ダーナの「よるこび」のつくられ方 スリランカにおける社会奉仕実践と布施の現場から
3. 学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村 沙絵
2. 発表標題 少子高齢化を迎えたスリランカの世代間関係と社会福祉
3. 学会等名 第65回比較家族史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村 沙絵
2. 発表標題 スリランカにおける資源環境への介入の歴史 CKDmfo (多因子的要因の腎臓病) の背景をたどる
3. 学会等名 KINDAS特別研究班第1回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 Bodily sensations and ethical relations: A reflection on the sensuous
3. 学会等名 The 11th International Convention of Asia Scholars (ICAS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 Anti-Muslim Sentiments and the Consequence of Intergaith Dialogue: "Epistemic" and "ontic" in Handling Otherness
3. 学会等名 "Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia: A Comparative, Interdisciplinary Study" The third (London) workshop (10/31-11/1) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 Intimacy and Economies of Care in Old Age: A Case Study from Sri Lanka
3. 学会等名 11th INDAS International Conference "Life and Death in Contemporary South Asia" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHIMIZU Hiromu
2. 発表標題 "Opening a Niche in the Philippine Society: Ethno-genesis of Katutubo Ayta after Mt. Pinatubo Eruption in 1991 "
3. 学会等名 Third Workshop on " Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Tatsuro Fujikura
2 . 発表標題 “ Re-articulating the demos: The Tharu experiments with self-governance in post-conflict Nepal ”
3 . 学会等名 Third Workshop on “ Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kazuya Nakamizo
2 . 発表標題 “ Violence and Identity Formation: Religious and Caste Identities in Bihar, India ”
3 . 学会等名 "Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia: A Comparative, Interdisciplinary Study " (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kazuya Nakamizo
2 . 発表標題 “ Understanding Vigilante Justice: The New Strategy of Hindutva Forces ”
3 . 学会等名 "Seminar organized by South Asian Studies Programme and Department of Political Science, Faculty of Arts & Social Sciences " (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Kazuya Nakamizo
2 . 発表標題 “ Vigilantism and the making of ‘ New India ’ : Changing Strategies for Hindutva ”
3 . 学会等名 "25TH EUROPEAN CONFERENCE ON SOUTH ASIAN STUDIES (ECSAS) PARIS, Panel 37 ‘ Majoritarian Politics and Vigilante Justice in India ’ " (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 "Melting Democracy: Strong State and Vigilantism in India"
3. 学会等名 2018年度アジア政経学会秋季大会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 討論者 分科会セッションD-6「平和研究」
3. 学会等名 国際政治学会2018年度研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shiimizu Hiromu
2. 発表標題 "Ethnogenesis of of Katutubo (Indigenous) Ayta: Post-Catastrophic Making of New Personhood and New Community after Mt. Pinatubo Eruption in 1991"
3. 学会等名 CHAGS XII (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shiimizu Hiromu
2. 発表標題 "Anthropology of "Response-ability": 40 Years of Committed Fieldwork with Pinatubo Aytas"
3. 学会等名 Philippine Sttudeis Conference in Japan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹中千春
2. 発表標題 「インド民主主義とアイデンティティ政治 国民、カースト、宗教の競合」
3. 学会等名 日本比較政治学会2018年研究大会、共通論題「アイデンティティと政党政治」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武内進一
2. 発表標題 「1990年代以降の土地法改革はアフリカに何をもたらしたか」
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 "Land registration in Rwanda: The motivations and consequences"
3. 学会等名 The 61st African Studies Association annual meeting at Atlanta
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rohan D'souza
2. 発表標題 "Environmental Change and the Politics of Pre-emption: Reconsidering Environmental Histories of South Asia in the Anthropocene"
3. 学会等名 Histories & Ecologies of Health International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rohan D'souza
2. 発表標題 "Are Environmental Histories of South Asia still possible in the Epoch of the Anthropocene ?"
3. 学会等名 The Anthropocene in Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rohan D'souza
2. 発表標題 "Connectivity has no Pulse: rivers as a biological challenge to infrastructure in Asia"
3. 学会等名 Annual Conference of the Japanese Association for South Asian Studies
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 「老年期の不調に対する非専門家によるケア実践とコミュニケーション スリランカの事例から」
3. 学会等名 第10回日本ヘルスコミュニケーション学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 "Bodily sensations and ethical relations: A reflection on the sensuous interaction between care-givers and dying residents at a home for elders in Sri Lanka"
3. 学会等名 日本南アジア学会第31回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 日下 渉
2. 発表標題 「公共圏の権利と親密圏の悲しみ フィリピンにおける性的マイノリティの生計と承認」
3. 学会等名 東南アジア学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 日下 渉
2. 発表標題 「道徳という偽りの処方箋 フィリピンにおける『悪魔探し・退治』の政治」
3. 学会等名 日本比較政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 日下 渉
2. 発表標題 "Complicity of " Good Citizens " and Extrajudicial Killing in the Philippines: A Neoliberal Outcome of Democracy"
3. 学会等名 アジア政経学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計25件

1. 著者名 Minoru Mio, Kazuya Nakamizo, Tatsuro Fujikura	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 216
3. 書名 The Dynamics of Conflict and Peace in Contemporary South Asia: The State, Democracy and Social Movements	

1. 著者名 中溝和弥	4. 発行年 2022年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 510
3. 書名 第7章「インド・パキスタン－民主主義と権威主義の分岐点」粕谷祐子編『アジアの脱植民地化と体制変動』	

1. 著者名 中溝和弥	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 352
3. 書名 「気候変動と民主主義－インド・ビハール州における洪水とその政治的含意」藤原 帰一、竹中 千春、ナジヤ・フサイン、華井 和代編『気候変動は社会を不安定化させるか』	

1. 著者名 中溝和弥、伊東さなえ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属南アジア研究センター	5. 総ページ数 398
3. 書名 南アジア 民主政治と国際政治のダイナミズム	

1. 著者名 中西 嘉宏	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 312
3. 書名 ミャンマー現代史	

1. 著者名 中西 嘉宏	4. 発行年 2022年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 -
3. 書名 「ビルマー急進派が選択した議会制民主主義」、粕谷祐子編『アジアの脱植民地化と体制変動』	

1. 著者名 中西 嘉宏	4. 発行年 2021年
2. 出版社 星雲新聞社	5. 総ページ数 -
3. 書名 ミャンマー政変と地域秩序への余波	

1. 著者名 中西 嘉宏	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 256
3. 書名 ロヒンギャ危機 「民族浄化」の真相	

1. 著者名 Sae Nakamura	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 -
3. 書名 Inclusive Development in South Asia	

1. 著者名 Sae Nakamura	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 -
3. 書名 Life, Illness, and Death in Contemporary South Asia: Living through the Age of Hope and Precariousness.	

1. 著者名 NAKAMIZO Kazuya	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会、Trans Pacific Press	5. 総ページ数 428
3. 書名 Violence and Democracy: The Collapse of One-Party Dominant Rule in India	

1. 著者名 Yasuo Matsunami and Shinichi Takeuchi	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Tokyo: African Studies Center	5. 総ページ数 321
3. 書名 Challenges of Development and Natural Resource Governance in Africa	

1. 著者名 拓徹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 時報出版(台湾)	5. 総ページ数 240
3. 書名 印度人為什麼天天吃	

1. 著者名 清水展	4. 発行年 2019年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 392
3. 書名 『出来事の民族誌 フィリピン・ネグリート社会の変化と持続』	

1. 著者名 SHIMIZU Hiromu	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Ateneo de Manila University Press	5. 総ページ数 469
3. 書名 Grassroots Globalization: Reforestation and Cultural Revitalization in the Philippine Cordilleras, Quezon City	

1. 著者名 Max Martin, Vinita, Damodaran, Rohan D'Souza, (eds)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 231
3. 書名 Geography in Britain after World War II: Nature, Climate, and the Etchings of Time	

1. 著者名 藤原帰一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 309
3. 書名 『不安定化する世界 何が終わり、何が変わったのか』	

1. 著者名 Michael Gordon and G. John Ikenberry eds. (Fujiwara, Kiichi)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Princeton University Press	5. 総ページ数 384
3. 書名 The Age of Hiroshima, "Hiroshima, Nanjing, and Yasukuni: Contending Discourses on the Second World War in Japan" pp.201-218	

1. 著者名 Shimizu Hiromu	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Kyoto University Press	5. 総ページ数 469
3. 書名 "Grassroots Globalization: Reforestation and Cultural Revitalization in the Philippine Cordillera"	

1. 著者名 清水展・富田江里子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 586
3. 書名 「草の根国際交流の実践としてのケア：フィリピン田舎の小さな助産院が結ぶ日比のつながり」速水洋子（編）『東南アジアにおけるケアの潜在力』所収（pp.539-571）	

1. 著者名 日本比較政治学会編 竹中千春 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 248
3. 書名 『アイデンティティと政党政治』	

1. 著者名 Bajpai Kanti and Byron Chong eds. TAKENAKA, Chiharu	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 634
3. 書名 "Routledge Handbook on China-India Relations"	

1. 著者名 笹川平和財団（編） 拓徹 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 イースト・プレス	5. 総ページ数 336
3. 書名 『アジアに生きるイスラーム』、「デーオバンド訪問記」	

1. 著者名 笹川平和財団（編） 中村沙絵 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 イースト・プレス	5. 総ページ数 336
3. 書名 『アジアに生きるイスラーム』、「多民族」状況を生きるスリランカのムスリムたち (pp.282-303)	

1. 著者名 国際開発学会（編）、日下渉	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 613
3. 書名 『国際開発学辞典』、「モラル・エノコミー」	

〔産業財産権〕

[その他]

Ethnicity, Religion, Conflict and Violence
<https://gtr.ukri.org/projects?ref=ES%2FS013148%2F1>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹中 千春 (Takenaka Chiharu) (40126115)	立教大学・法学部・教授 (32686)	
研究分担者	武内 進一 (Takeuchi Shinichi) (60450459)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	デスーザ ローハン (D'Souza Rohan) (60767903)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授 (14301)	
研究分担者	清水 展 (Shimizu Hiromu) (70126085)	関西大学・政策創造学部・特別任用教授 (34416)	
研究分担者	藤倉 達郎 (Fujikura Tatsuro) (80419449)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中西 嘉宏 (Nakanishi Yoshihiro) (80452366)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授 (14301)	
研究分担者	日下 渉 (Kusaka Wataru) (80536590)	名古屋大学・国際開発研究科・准教授 (13901)	
研究分担者	中村 沙絵 (Nakamura Sae) (80751205)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	藤原 帰一 (Fujiwara Kiichi) (90173484)	東京大学・大学院法学政治学研究科（法学部）・教授 (12601)	
研究分担者	高橋 徹（拓徹） (Takahashi Toru) (90795626)	大阪大学・言語文化研究科（言語社会専攻、日本語・日本文化専攻）・助教 (14401)	
研究分担者	H U S S A I N N A Z I A (Hussain Nazia) (30837860)	東京大学・未来ビジョン研究センター・特任助教 (12601)	
研究分担者	下條 尚志 (Shimojo Hisashi) (50762267)	神戸大学・国際文化学研究所・准教授 (14501)	
研究分担者	今村 祥子 (Imamura Sachiko) (60725498)	大阪市立大学・大学院文学研究科・都市文化研究センター研究員 (24402)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中里 成章 (Nakazato Nariaki)		
研究協力者	セト サンジャイ (Seth Sanjay)		海外共同研究者
研究協力者	ヴァナイク アチン (Vanaik Achin)		海外共同研究者
研究協力者	ネヤジ タベレーズ アフマッド (Neyazi Taberez Ahmad)		海外共同研究者
研究協力者	今村 祥子 (Imamura Sachiko)		2019年度より研究分担者から研究協力者に変更
研究協力者	水澤 純人 (Mizusawa Sumito)		
研究協力者	永野 和茂 (Nagano Kazushige)		
研究協力者	鶴田 星子 (Tsuruta Seiko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	清水 加奈子 (Shimizu Kanako)		
研究協力者	賀川 恵理香 (Kagawa Erika)		
研究協力者	本山 可南子 (Motoyama Kanako)		
研究協力者	宮園 琢也 (Miyazono Takuya)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計10件

国際研究集会 Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 ESRC under the UK-Japan SSH Connections Call "Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia"	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 "Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia", Second workshop	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 "Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia", Third workshop	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 The 11th International Convention of Asia Scholars (ICAS)	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 American Political Science Association Annual Meeting	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia: A Comparative, Interdisciplinary Study	開催年 2018年～2020年

国際研究集会 "25TH EUROPEAN CONFERENCE ON SOUTH ASIAN STUDIES (ECSAS) PARIS, Panel 37 'Majoritarian Politics and Vigilante Justice in India' "	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 "Seminar organized by South Asian Studies Programme and Department of Political Science, Faculty of Arts & Social Sciences "	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 The 49th Annual Conference on South Asia(UW-Madison)	開催年 2021年～2021年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
英国	Goldsmiths college, University of London	Goldsmith, University of London	the Economic and Social Research Council